

奄美大島の複雑な海岸線

奄美大島の特徴的な海岸線は、1000 万年前から 200 万年前までの間に生じた地殻変動でアジア大陸や日本との分離接続が繰り返されたことによって形成されました。この地殻変動は、深い入り江や海まで裾野が広がる山の斜面が特徴的な海岸線を作り出しました。島の大部分は、多種多様な海の生き物が生息しているサンゴ礁で囲まれています。例えば、大浜海岸ではウミガメがしばしば見かけられます。

島のサンゴ礁の保護

奄美群島の周囲の海では 200 種以上のサンゴの存在が確認されています。サンゴ礁は優れた生物多様性を有する豊かな生態系で、全海洋生物種の 4 分の 1 がサンゴ礁に生息しています。しかし、サンゴ礁は脆弱で海水の温度変化や汚染の影響を受けやすくもあります。奄美大島周辺の海岸線や海は、奄美群島固有の生態系と文化を保護するため 2017 年に設立された奄美群島国立公園の一部に指定されています。シュノーケリング許可されている特に生き物が豊富なサンゴ礁の一带のある小浜のサンゴ礁保護区域は、大浜海浜公園から岬沿いに北へ徒歩 10 分です。このスポットは車で行くことはできません。

海沿いの景色を楽しむドライブ

大浜海浜公園から南西に伸びる道路の大部分は岩の多い海岸線に沿っており、奄美大島の様々な景色を楽しむことができます。奄美大島には平地が少ないため、集落は海岸に集中しており、多くの集落は木々に覆われた山の斜面に囲まれた入り江につくられています。海岸沿いをドライブすると、海浜公園から車で約 20 分のところにある国直をはじめとするこのような集落をいくつも通ります。国直集落にはビーチ、そしてこの海岸線一帯には数少ない食堂が数軒あります。